

各地の農場には優秀な若手が勤務している。数ある職場のなかで、農場に勤めることを選んだ彼らは、農業や勤務先の農場をどのように見つめ何を感じているのか。今回は、前回に引き続き(有)茨城白菜栽培組合に勤める唐澤秀氏が(有)マルミファームに勤める稲吉保氏の対談を紹介する。

唐澤 稲吉さんはこちらに勤めて長いそうですね。どれくらいになるんですか？

稲吉 アルバイトから始めて、もう22年になりますね。もともと養豚に興味があったわけじゃないんですけど。

唐澤 それがいつの間にか22年ですか。ここに来る以前はどんな仕事をされていたんですか？

稲吉 電気系の学校を出て、トヨタ系列の会社で工作機械を作ったりしていました。ただ、ロボットみたい毎日同じ作業をしているのが自分に合いませんでした。退職して半年くらいした頃、社長と知り合いだった父から、この農場でアルバイトしないかって紹介されて勤め始めたんです。

唐澤 勤め始めた頃はどのような印象でした？

稲吉 興味本位で働き始めたんです

# 訪問農場に勤める夢

第11回

## 社長が見せてくれた夢

……の巻



今月のゲスト

## 唐澤 秀 (30歳)

出身：静岡県浜松市  
所属：農業生産法人 (有)茨城白菜栽培組合  
雇用形態：社員  
備考：1999年、明治大学農学部卒業後、2000年、(有)茨城白菜栽培組合に入社。現在、開発・営業担当。

が、やってみると作業は毎日違うし、見るもの聞くことすべてが新鮮で楽しかったですね。豚を見ているのも飽きませんでしたし。

唐澤 ちょうど自分に合う職場だったんですね。

稲吉 それに社長にも興味がありました。ものの考え方や地域との接し方、ちょっとした発言や行動などからも教わることがたくさんあったんですよ。社員になったばかりの時には、養豚関係者の視察でアメリカに行かせてくれたりもして、親子同然にかわいがってもらいました。

唐澤 社員になったばかりでアメリカですか……。

**稲吉** 話を聞いたときは僕も驚きました。社員といってもアルバイトを1年くらいやっていただけで、豚については素人同然でしたから、僕が行っても無駄ですよって言ったんですけどね。若いうちに海外を見てくることがお前のためになるんだって言うてくれて。

**唐澤** そこまでしてくれるなんて、なかなかないですよ。アメリカに行ってみて何か収穫はありましたか？

**稲吉** 結果的には帰って帰ってきた資料をもとに、今の豚の管理体制の基盤を作ることができたりしましたけど、たまたまです。ただ、この時からですね、本気でこの仕事を続けてみようと思ったのは。社長についていけば、またいろいろなことを教えてもらえるんじゃないかと思って。

**唐澤** 仕事がおもしろくて、社長さんも尊敬できて、仕事ぶり次第でボーナスも出るんですよ。従業員としては言うことないですね。

**稲吉** やっているうちに会社を大きくしたいとも思うようになってきて、夢中でやっているうちに時間が経ったという感じです。気が付けば後から入った従業員もいて、いつの間にか中堅なのかって、自分でも不思議です。

**唐澤** 入社当時と今では変わったこ

とも多いんじゃないですか？

**稲吉** 勤め始めた当時は家族経営でアルバイトは僕一人でしたから、のんびりした雰囲気です。今では規模も大きくなりましたし、社長も養豚家の先頭にたつて活動するようになりました。偉くなりすぎて、ちょっと怖いところもあるんですけど(笑)。

**唐澤** 管理の仕方を見直すこともあったようですし、従業員としては大変だったんじゃないですか？

**稲吉** 仕事に要求されるレベルはだんだん高くなっていきました。それに、社長が外に出ている間に自分が作業を進めるようになってくると自分

分が会社を動かしているように錯覚したりする部分もあったりもして、社長のやり方にはもうついて行けない、生き方が違うって反発したこともありました。

**唐澤** わかるような気がします。

**稲吉** それに、ほかの従業員の負担を考えるとやりすぎだと思ったりもあって、退職も覚悟した上で直訴したりしていったんです。いま思うと社長が長期的に考えているのに、僕は目先の物事だけでしか判断できていなかったんです。それでも辞めずにこられたのは、人として社長とお互いに通じ合うものがあつたからだと思います。



今月のホスト

# 稲吉 保 (44歳)

出身：愛知県幸田町  
所属：(有)マルミファーム

雇用形態：社員

備考：1962年生まれ。高校卒業後トヨタグループ系のトヨタ工機(株)に勤務、工作機械の製造を担当。1983年、同社退社。1984年、アルバイトとして入社後、正社員に登用される。勤続22年目。現在、農場長。

**唐澤** 会社や立場が変わっても、そこは揺るがなかったんですね。

**稲吉** 社長にうまくのせられたところもあるのかもしれないんですが、社長がよく言っていたようなことを今になって自分がやっていたりするんですよ。従業員としては、必要とされるような仕事をしなければいけないのだと思いますが、これだけ事業が拡大して、まだ勤められているというのは多少なりとも貢献できたのかもしれないですね。

**唐澤** ところで、ほかの農家さんと交流したりといったことは？

**稲吉** ありましたよ。うちの農場の理念にある「心のゆとり」、これを



## 8. マルミファームの夢



稲吉氏が最終目標にしている「ビッグランド」。

稲吉 ただ、今のうちの従業員は担当が決まっているなかで作業に追われているので、外に出る機会がないんです。豚を管理しているというか、管理されていると言ってもいいかもしれません。でも、どうにかそういう時間も作れるように改善していきたい。そもそも、そういうことができるようにすることがうち

唐澤 若手も投資だと思っ、参加費を自分で出してでも集まりにでていくべきだと思います。稲吉 ただ、今のうちの従業員は担当が決まっているなかで作業に追われているので、外に出る機会がないんです。豚を管理しているというか、管理されていると言ってもいいかもしれません。でも、どうにかそういう時間も作れるように改善していきたい。そもそも、そういうことができるようにすることがうち

実践する意味で社長が地域の活動に参加させてくれたりもしていました。唐澤 そこで刺激を受けたりすることもあったわけですか？稲吉 そのでの出会いは仕事をしていくうえでエネルギーにもなりませんでしたね。農場の中で作業ばかりしていたら、前向きに考えることができなくなることもあったと思います。そういった集まりを通じて農業にもいろいろあることを知って視野が広がられたり、自分自身を見直したり

するきっかけにもなりました。唐澤 僕は茨城で「若手の会」という集まりを開いているんですよ。参加者は生産者に限らないんですが、若手も自由に交流できる場があってもいいだろうと思っ。全国的にこういった活動を広げていきたい。稲吉 それはいいですね。従業員だつて幅広い人と会って、刺激し合うことでレベルアップしていきますからね。会社をより大きくしたいという点では、経営者も従業員も同じ思いのはずですし。



も渉活動し  
長交活  
理事た  
のFTA  
組合に  
同社先  
協同陣  
業弘の  
事務養  
豚養  
養豚  
日務め  
務め養  
務め養

の会社の理念でもあるわけですか。唐澤 外に出るようになれば従業員のモチベーションだって上がるはずですし、仕事にもいい影響があると思いますよ。ところで、稲吉さんは今後やりたいことありますか？

稲吉 「ビッグランド」というのを作りたいんですよ。そこには豚舎やハム工房、豚肉も食べられるレストラン、動物の診療所などがあるんです。もともとは社長が構想したものでありますが、15〜16年前に絵にしたものを初めて見せてもらって以来、これを最終目標にしてやってきました。この農場はこうなっていくのかつて、ものすごい衝撃的でした。自分が作った肉を食べてくれところを間近に見られるなら、それほど嬉しいことはないです。

たし、後継者の方も獣医になって帰ってきた。僕の中では着実にビッグランドの実現に近づいているんです。レストランについては、うちだけでやる必要はないと思っますが、地域で同じような夢を持っている人がいるわけでもなくて、今後どうクリアしていくかを考えないといけません。せめて、ここ来ればうちの豚肉が食べられますよつて言える場所がほしい。

唐澤 生産者同士が全国規模で横につながっていければ、自分たちの夢や想いを具現化できるようなネットワークを作つて仕掛けていくことができますはずですよ。そういうふうになれば、地域にこだわらなくてもレストランだつて実現できる！

稲吉 そうかもしれませんね。定年するまでに間に合わなかったとしても、一生かけてなんとかこのビジョンを実現したいです。

(まとめ編集部)